

2025年度 点検・評価報告書

I 点検・評価の概要

1. 点検・評価の目的

- (1) 点検・評価は、以下の目的で行う。
 - ① 教育の質保証のための各学科等での取組状況・成果の可視化と、教育の継続的な改善の支援
 - ② 教育改革委員会で定めた方針の各学科等での具体化・定着に係る状況の確認

2. 点検・評価の実施方法

- (1) 点検の実施方法
 - ① 学長室は各学科に対して点検の実施を依頼する。
 - ② 各学科の学科長は、点検項目についてその時点での検討・取組状況に関する自己評価を実施し、学長室に報告書を提出する。
 - ③ 報告書の作成に当たっては、所管する各学科について学部長がその作成を監督・支援する。
 - ④ 各学科から提出された報告書は、学長室が内容を確認する。
 - ⑤ 学長室は各学科の報告書の内容を確認後、各学科長と教育改善に向けた対話を実施し、学部・学科の検討状況、課題認識等について確認する。
 - ⑥ 学長室は全ての学科の報告書をまとめ、その内容を外部評価員が確認する。
 - ⑦ 全ての学科との対話を終えた学長室は、当該年度の点検結果を年度内に学長及び教学担当副学長に報告する。
- (2) 評価の実施方法
 - ① 学長室は、評価の対象学科に対して、評価を実施する前年度中に、次年度の対象学科である旨の決定通知を行う。
 - ② 学長室は評価の対象学科に対して、評価の実施を依頼する。
 - ③ 各学科の学科長は、点検項目についてその時点での検討・取組状況に関する自己評価を実施し、学長室に報告書とエビデンス資料を提出する。
 - ④ 報告書の作成に当たっては、所管する各学科について学部長がその作成を監督・支援する。
 - ⑤ 各学科から提出された報告書は、学長室が内容を確認する。
 - ⑥ 学長室は各学科の報告書の内容とエビデンス資料を確認後、各学科長と教育改善に向けた対話を実施し、学部・学科の自己評価の妥当性や検討状況、課題認識等について確認する。
 - ⑦ 学長室は全ての学科の報告書をまとめ、その内容を外部評価員が確認する。
 - ⑧ 全ての学科との対話を終えた学長室は、当該年度の評価結果を年度内に学長及び教学担当副学長に報告する。

3. 点検・評価の結果の活用

- (1) 学部長・学科長は、点検・評価の結果を教育改善に係る計画・検討に活用する。
- (2) 当該学科の学科長は、点検・評価にて顕在化した課題をカリキュラム改善計画に反映する。

II 点検・評価における実施項目

点検・評価は以下の5セクションから成る10個の項目で実施する。

※今年度より、「2-②効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み」、「4-①入学者選抜の適性の確認」に関する項目を追加

1. 修得目標の策定・見直し

- ① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保及び効果的・効率的な編成・運営

- ① 修得目標に対する体系性・有効性の確認
- ② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

3. シラバスの作成・改善

- ① 組織的なシラバスチェックの実施
- ② 担当教員間の調整

4. 入学者選抜

- ① 入学者選抜の適性の確認

5. 学修成果及び教育成果の評価

- ① 学生の修得目標の達成度の把握
- ② 就職率・国家試験合格率の向上に向けた取り組み
- ③ 学生調査の分析・活用
- ④ 授業評価アンケートの分析・活用

2025年度 点検・評価報告書における総評

(点検実施学科：25学科 3コース)

医学部	医学科
薬学部	薬学科
医療技術学部	視能矯正学科／看護学科／診療放射線学科／臨床検査学科／スポーツ医療学科救急救命士コース ／柔道整復学科
経済学部	経済学科／国際経済学科／地域経済学科／経営学科／観光経営学科
法学部	法律学科／政治学科
文学部	日本文化学科／史学科／社会学科／心理学科
外国語学部	国際日本学科
理工学部	総合理工学科／データサイエンス学科／情報科学科通信教育課程
福岡医療技術学部	理学療法学科／作業療法学科／看護学科／医療技術学科救急救命士コース ／医療技術学科臨床工学コース

(評価実施学科：4学科 2コース)

医療技術学部	スポーツ医療学科健康スポーツコース／スポーツ医療学科トッパスリートコース
外国語学部	外国語学科
教育学部	教育文化学科／初等教育学科
福岡医療技術学部	診療放射線学科

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての学科において、すべての修得目標に対して「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、さらに、全学科の1割の学科にて、学外関係者の意見や社会の動向、学生のニーズも学科独自に調査し、修得目標の見直しに活用している。

・医療技術学部看護学科では、卒業生の就職先施設にアンケート調査を実施し、各修得目標に対応する能力がどの程度身に付いているかを把握している。

・経済学部地域経済学科では、学科独自に卒業生を対象としたアンケート調査を実施し、教育内容や支援の満足度合い、学科での学びが仕事に役立っているかといった回答を通じて、学科の教育の評価を把握している。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保及び効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

全学科の8割の学科において、カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を踏まえて現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている。また、全学科の5割の学科にて、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている。

・経済学部経営学科では、学生の履修状況を把握し、履修者数の少ない会計学関連科目について、学生が確実に履修するよう、カリキュラムの変更を行った。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

全学科の9割の学科にて、効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、学科として課題が把握できている状態となっている。また、全学科の7割弱の学科にて、改善の検討や取組を行っている。

・教育学部教育文化学科では、学科所属教員へのアンケートを通じて、業務量や負担の偏在、協力体制の現状、教育課程運営の改善点を把握し、改善に向けた検討を進めている。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

全学科の9割の学科にて、学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、修得目標の落とし込みが十分ではない学科の専門科目のシラバスについては修正等の対応を進めている状態となっている。また、全学科の3割の学科にて、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている。

・理工学部総合理工学科環境バイオテクノロジーコースでは、効率的かつ正確なシラバスチェックを行うため、Googleフォームを用いたシラバスチェックリストの活用を進めている。

② 担当教員間の調整

全学科の8割弱の学科にて、シラバス作成にあたり、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っており、全学科の2割の学科においては、加えて同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適性の確認

全学科の8割弱の学科にて、定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている状態である。また、全学科の4割弱の学科は、定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている。

- ・医療技術学部視能矯正学科では、高校生に向けた情報発信など、学生主体でSNSを活用した広報活動を展開している。
- ・医療技術学部スポーツ医療学科救急救命士コースでは、学科で作成した紹介動画の情報をオープンキャンパスや高校訪問時に配布するとともに、消防関係の雑誌への掲載など、広報活動を行っている。
- ・福岡医療技術学部理学療法学科では、学科独自のアカデミックキャンプを実施し、学生と高校生が協働して筋力測定等のデータを取得するなど、学科の学びに触れる機会を提供している。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

全学科の9割の学科にて修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している状態となっている。また、全学科の3割弱の学科にて、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用している。

・文学部社会学科では、選択必修科目の単位未取得による卒業・資格取得への影響を防止するため、対応ガイドラインを整備し、履修選抜に関する学生への周知徹底を進めている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

全学科の9割の学科にて、学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている。さらに、全学科の7割弱の学科にて、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている。

- ・医療技術学部スポーツ医療学科救急救命士コースでは、面接対策動画をLMS上に掲載しており、同学科の健康スポーツコース・トップアスリートコースの学生に加え、福岡医療技術学部医療技術学科救急救命士コースの学生にも共有している。
- ・文学部日本文化学科では、学科独自に卒業生との交流会を実施するとともに、4年生を対象に就職活動に関する悩み等を把握するためのWEBアンケートを行っている。
- ・福岡医療技術学部の理学療法学科と看護学科では、国家試験対策として共通する学修項目について、合同学修を行った。

③ 学生調査の分析・活用

全学科の9割弱の学科にて、学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている。また、全学科の6割の学科にて、学生の学修時間および学修活動、満足度の数値向上のための取り組みを行っている。

・教育学部では、独自に実施している学生調査の結果より、学生の学修時間が短い傾向が明らかとなったことを受け、学修時間確保を促すための啓発資料を作成し学生に配布した。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

全学科の9割の学科にて、授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している状態となっている。また、全学科の4割弱の学科にて、所属教員全体の平均回答率40%以上を確保し、授業評価アンケート結果の向上のために、学科で報告会等を実施し、情報共有に努めている。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証し、さらに学外関係者の意見や社会の動向、学生のニーズも学科独自に調査し、修得目標の見直しに活用している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、組織的・計画的な担当授業の決定、業務の分担、効率的な会議の運営、教員間の協力体制の構築等、適切な教育課程の編成・運営ができています

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

【特筆すべき取り組み】

よりアドミッション・ポリシーにあった学生を選抜するために、2025年度より総合型選抜を導入した。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

【特筆すべき取り組み】

2024年度新入生から適用されている薬学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠したカリキュラムを構築し、学年進行に合わせて実施している。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、組織的・計画的な担当授業の決定、業務の分担、効率的な会議の運営、教員間の協力体制の構築等、適切な教育課程の編成・運営ができています

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、修得目標の落とし込みが十分ではない学科の専門科目のシラバスについては修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

新しい視能訓練士国家試験出題基準が公表されたことを受け、各科目における内容の洗い出しおよび調整、ならびに出題基準との紐づけ状況の確認を行う予定である。あわせて、カリキュラムマップについても科目担当者による確認を依頼する。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が80%未満、または、アドミッション・ポリシーと入学者選抜のどちらも改善の必要がある

【特筆すべき取り組み】

オープンキャンパスでは3年生を中心とした在学生が主体的に運営に関わっている。また、高校生に響く情報発信を目的にTikTokを活用した広報を行っており、視能訓練士の業務や眼科検査の内容を、教員の確認のもと発信している。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

【特筆すべき取り組み】

国家試験対策としてチューター制度を活用し、学生の成績の底上げに取り組んでいる。対面での個別指導を必要とする学生も多く、今年度もLMSを活用して対策動画およびスライドの配布を行っている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証し、さらに学外関係者の意見や社会の動向、学生のニーズも学科独自に調査し、修得目標の見直しに活用している

【特筆すべき取り組み】

ルーブリック評価表を全学年で本格運用し、学期ごとの目標設定・自己評価・振り返りに活用している。具体的には以下の取り組みを進めている。

- ・進級・新入生ガイダンスでの周知と活用指導
- ・学期ごとの自己評価記録を通じた学生の到達度の把握
- ・前年度との比較による学年別平均値の推移の検証
- ・学長室との対話における報告・フィードバックへの活用

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

シラバスに掲載している「関連科目」の授業の聴講を通して、各担当教員は授業内容の重複の調整に向けて意識化している。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

【特筆すべき取り組み】

- ・国家試験合格率の維持・向上を目指した継続的な取り組みとして、2024年3月末において、新4年生への新年度ガイダンス時に、国家試験対策ガイダンスを実施し、2024年度における国家試験に向けた取り組みを早期に行うよう動機づけをした。
- ・国家試験合格率の維持・向上を目指した新たな取り組みとして、2024年度における国家試験対策講座について、例年よりも開講期間を広げることで講座の間隔をあげ、学生が十分に予復習ができるよう調整した。また、講座の内容に予想問題などの学生のニーズに応じたものを加えた。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用している

【特筆すべき取り組み】

・学科カリキュラム検討部会(2025年5月10日開催)にて、授業評価アンケート回答率向上に関する工夫の共有と検討を実施した。また、看護学科2・3・4年生を対象学年とし、各学年のクラス委員にヒアリングを実施した。その結果、アンケートに記載しても授業改善がなされない経験からアンケート回答へのモチベーションが低下していることがわかった。加えて、学内のWi-fi環境の問題から授業中に授業評価アンケートにアクセスできない点や2段階認証などのシステムの煩雑さがあることが明らかとなった。この結果を毎月開催される看護学科専任教員会議において報告し、今年度前期の回答率の結果などの経過を見ていくことにしている。

・以下の3つを目的とした看護学科専任教員対象のWebアンケートを2025年度中に実施し、その結果をもとに学科カリキュラム検討部会で評価し、最終的には学科内教員への周知をはかる予定である。

目的 1. 授業評価アンケートの結果に基づくアクションプランシートへの入力および授業改善への取り組みの把握

目的 2. 授業評価アンケートの回答率および回答率の向上に寄与する要因の把握

目的 3. 授業の事前・事後学修（予習・復習）を促進するための取り組みの把握

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、修得目標の落とし込みが十分ではない学科の専門科目のシラバスについては修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間で同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っており、組織的に内容の調整や統一を図るための検討を行っている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている

【特筆すべき取り組み】

- ・卒業試験を複数回実施し、到達度を確認している。
- ・基準に満たない学生には チュートリアル面談を実施し、個別に学習方法を指導している。
- ・補講を実施し、大学で学修を継続できる環境を整備している。
- ・学生の就活状況を Googleフォームで逐次把握し、タイムリーに指導・助言を行っている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

今年度より3年次科目である『総合放射線技術学応用演習』の定期試験を国試形式に改め、早期から国家試験を意識した学修を促している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証し、さらに学外関係者の意見や社会の動向、学生のニーズも学科独自に調査し、修得目標の見直しに活用している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、組織的・計画的な担当授業の決定、業務の分担、効率的な会議の運営、教員間の協力体制の構築等、適切な教育課程の編成・運営ができています

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

【特筆すべき取り組み】

15名の教員が国家試験対策講座を5回以上実施し、成績が下位の学生に対してそれぞれ3回以上の補講を実施している。学内模擬試験を3回、全国模試を3回実施し、その都度成績下位20名程度と面談している。昨年度の留年生にはチューターを置き、成績下位の学生は同じ教員が面談することでチューター化して対応を行っている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行い、成果を確認できている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、組織的・計画的な担当授業の決定、業務の分担、効率的な会議の運営、教員間の協力体制の構築等、適切な教育課程の編成・運営ができています

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

学生を対象に行う個人面談を体系化し、課題を抱える学生の早期発見・介入に努めている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が50%以上であり、結果の向上の取組として、学科内で共有した情報を、他学科に対しても発信している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

【評価理由】

本コースの修得目標レベル1は、コースのディプロマポリシーに沿って4つの項目で作成されている。また、修得目標レベル2は、修得目標レベル1の4項目をさらに15項目に細分化し、進級に伴い段階的にレベル2の修得目標を達成できる科目配置にしている。さらに、カリキュラムマップを学科会議で確認し、各科目と修得目標レベル2の整合性を担保している。データ4-2、4-3、4-4、及び4-5における修得目標レベル2の15項目ごとのGPAについて、2.0を下回っている項目は、2021年度入学生は1項目（1.85）、2022年度入学生は3項目（1.88、1.98、1.99）、2023年度入学生は2項目（1.89、1.90）及び2024年度入学生は2項目（1.75、1.89）であり、これら以外の項目では2.0以上であり、学生は良い成績で修得目標を達成している。また、データ5-1と5-2における学生の自己評価の平均と修得目標レベル2の達成について、2023年度入学生と2024年度入学生は、全ての15項目が4点「おおそ修得できている」と3点「ある程度修得できている」であり、修得目標レベル2の15項目が達成できていると評価できる。しかし、学生の入力率が低いいため、各演習関連授業で入力を促す指導が必要である。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

【評価理由】

本コースは、アスレティックトレーナー、保健体育教員及び健康運動指導士の資格取得ができるコースであるが、専門科目の「必修＋選択必修」比率は21%であり、学生による科目選択の自由度が高く、学生自身の興味や関心に応じた科目選択が可能である。共通教育科目についても、必修比率は昨年度の9%から4%に低下しており、学生の科目選択の自由度が担保されている。また、2025年度より多様な教育体制と社会との連携を高めるために、文系と理系の科目を学ぶカリキュラムに移行した。本コースの専門科目は、以前より文系と理系の科目が配置されており、共通教育科目でも文系と理系の科目が配置されたことにより、本コースの学生が文系と理系の科目をより学修できる科目配置になった。2024年度入学生より、AT資格は認定団体による受験資格ルールの変更に伴い、3年生での資格受験が可能となり、それに合わせたカリキュラム変更を実施した。また、入学時に受験希望の資格アンケートと毎年各資格取得状況と合格率について学科会議で確認している。さらに、複数の資格を取得しやすくなるためのカリキュラム改革について、各資格担当教員、教務委員会及び学科会議で検討し、2026年度より実施予定である。2024年度卒業生の修得目標の単位取得状況をみると、本コース学年の80%超が15の修得目標に該当する科目を履修し、15の修得目標を達成している。また、2024年度卒業生の1年から4年までの学年平均GPAは、2.39から2.16であり、卒業時の累積平均GPAは2.33である。よって、2024年度に卒業をした80%超の学生は、良いGPAで本コースの15の修得目標を達成して卒業をしている。2022年度入学生の修得目標の単位取得状況をみると、本コース学生の80%超は修得目標レベル2にある15項目のうち、11の修得目標を達成している。残りの4項目については、応用演習と資格関連科目の単位を修得することで修得目標レベル2の15項目が達成できると考えられる。よって、15項目の修得目標を達成できる履修指導を学修ポートフォリオと演習等を通じ、学生に指導している。なお、学生平均GPAは2.08であり、学修成果及び修得目標の達成度は満たされていると評価できる。2023年度入学生の修得目標の単位取得状況をみると、本コース学生の80%超が修得目標レベル2にある達成した項目は8である。本コースでは修得目標のレベル1-Aと1-Bに対する科目が1年生と2年生に多く配置されており、これらにある科目の履修と修得目標が達成できている。なお、学年平均GPAは2.19であり、学修成果及び修得目標の達成度は満たされていると評価できる。2024年度入学生の修得目標の単位取得状況をみると、本コースの専門科目では修得目標のレベル1-Aに対する科目が1年生に多く配置されており、この修得目標レベル1-Aに配置されている科目履修と単位取得をしている。しかし、2024年度からの共通教育科目の変更により、修得目標レベル1-Dに配置されている授業が増えたことにより、80%超の学生が修得目標レベル1-Dに配置されている修得目標レベル2にある取得目標も達成しており、合計で修得目標レベル2にある15項目のうち9項目を達成している。なお、学年平均GPAは2.16であり、学修成果及び修得目標の達成度は満たされていると評価できる。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、組織的・計画的な担当授業の決定、業務の分担、効率的な会議の運営、教員間の協力体制の構築等、適切な教育課程の編成・運営ができています

【評価理由】

本コースでは、2024年度に1名が定年、2名が退職をしたため、開講科目の削減、2名の教員採用及びスポーツ医科学センター教員らの協力により、教育課程の編成と科目の整理を実施した。しかし、さらに2024年度末に2名の退職により応用演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの2クラスが減少したために、学生たちを他のクラスに移動させる対応をした。よって、3年生と4年生の応用演習を少人数（20名以内）で実施するためには、2名の採用が必要である。また、教員の業務内容については、学科内の教授会で委員のメンバーを検討している。さらに、本コースの教員は課外活動の顧問や監督をしており、引き続き教員の職務内容と状況について、検討が必要である。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【評価理由】

2月の学科会議において、教員をペアにしてお互いの授業シラバスを確認している。特に、修得目標レベル2の記載と複数の評価法による成績処理について確認をしている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】

データ6、シラバスデータから、同一科目については、同一のシラバスになっていることを担当教員間で確認している。また、科目名にナンバーが振られており、内容が積み上げ式になっている授業については、前後のつながりについて担当教員間で確認している。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

【評価理由】

データ1. 教学に関する基礎データでは、定員の充足率は、2023度が95%、2024年度が103%、及び2025年度が131%であり、近年順調に増えている。さらに、志願者数（志願倍率）は2023年度が851名（4.2倍）、2024年度が815名（3.5倍）及び2025年度が960名（4.2倍）であり、歩留まり率も56%、58%及び72%と高い傾向を示している。退学者（退学率）は9名（4%）と低い傾向にあるが、4名の退学理由が心身耗弱であり、大学と協力をしたサポート体制が必要である。データ7-2. 教学データ分析から、2021年度入学生の4年間における単位取得状況を見ると1年次と2年次にそれぞれ45.2単位と41.5単位を取得しているため卒業に必要な単位の70%弱を2年間で取得しており、3年次と4年次は学修に加え、就職活動に時間をかけていたと考えられる。また、GPAについては入学区分による違いの傾向は認められないが、1年次のGPA成績と4年次のGPA成績には正の関係が認められ、ほぼすべての学生が1年次から4年次まで高いGPAを維持できている。よって、2023年度卒業生は、1年生よりGPAを維持しながら、順調に卒業単位を取得できていたと考えられる。1年次のGPAと入学区分の関係を見ると、上位25%にいたる割合は推薦47.8%、総合型選抜35.8%及び一般25%であり、上位25～50%においても総合型選抜34.3%、学校推薦17.4%及び一般19.6%である。2021年度の本コースの入学者は、約半数が一般入試であり、残りの半分が総合型選抜と学校推薦である。しかし、退学者9名と除籍者4名は、一般入試の学生であった。よって、総合型選抜と学校推薦で入学した学生の70%以上は、GPAが上位50%以上にあり、退学、除籍及び留年も少ない傾向にある。2024年度入学生では、総合型選抜と学校推薦の入学者が約75%以上である。また、オール帝京の入学者数が増え、一般入試の学生が20%以下と少なくなっている。1年次GPAの上位25%は2021年度と同じように総合型選抜と学校推薦の学生は高いが、オール帝京とスポーツ推薦の学生の割合も増えている。よって、一般入試から総合型推薦と学校推薦に入学定員の割合を増やしたことで、学生定員を確保し、GPAの高い学生が獲得できていると考えられる。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【評価理由】

データ4-5. 2024年度卒業生の修得目標の単位修得状況をみると、本コース学年の80%超が15の修得目標に該当する科目を履修し、80%超の学生が15の修得目標を達成している。また、2024年度卒業生の1年から4年までの学年平均GPAは、2.39から2.16であり、卒業時の累積平均GPAは2.33である。よって、80%超の学生は良いGPAで本コースの15の修得目標を達成して卒業をしている。データ4-2. 2024年度入学生の修得目標の単位取得状況をみると、本コースの専門科目では修得目標のレベル1-Aに対する科目が1年生に多く配置されており、履修者数及び単位取得者数も修得目標レベル1-Aに配置されている修得目標を達成している。しかし、2024年度からの共通教育科目の変更により、修得目標レベル1-Dに配置されている授業も多く、80%超の学生が修得目標レベル2にある15項目のうち9項目を達成している。なお、学年平均GPAは2.16であり、学修成果及び修得目標の達成度は満たされていると評価できる。データ4-3. 2023年度入学生の修得目標の単位取得状況をみると、80%超の学生が履修し、単位を修得した科目は8の修得目標を修得している。本コースでは修得目標のレベル1-Aと1-Bに対する科目が1年生と2年生に多く配置されており、履修者数及び単位取得者数も修得目標レベル1-Aとレベル1-Bに配置されている科目履修と単位取得ができている。なお、学年平均GPAは2.19であり、学修成果及び修得目標の達成度は満たされていると評価できる。データ4-4. 2022年度入学生の修得目標の単位取得状況をみると、80%超の学生が履修し、単位を修得した科目は11の修得目標を達成している。残りの4項目については、応用演習と資格関連科目の単位を修得することで修得目標レベル2の15項目が達成できると考えられる。よって、応用演習で本コースでは修得目標のレベル1-Aと1-Bに対する科目が1年生と2年生に多く配置されており、履修者数及び単位取得者数も修得目標レベル1-Aとレベル1-Bに配置されている科目履修と単位取得ができている。なお、学生平均GPAは2.08であり、15項目の修得目標を達成できる履修指導を学修サポートフォリオと演習等を通じ、学生に指導をする。また、データ4-6に示されている各科目の単位取得率について、単位取得率が50%台の本学科の関連科目は4科目、60～70%台が25科目であり、それ以外の科目は履修した学生の80%以上が単位を取得している。よって、単位取得率が50%台の科目について、学生の出席状況や成績の評価方法について確認をする。さらに、データ5-1と5-2における学生の自己評価の平均と修得目標レベル2の達成について、2023年度入学生と2024年度入学生は、全ての15項目が4点「おおそ修得できている」と3点「ある程度修得できている」であり、修得目標レベル2の15項目が達成できていると評価できる。しかし、学生の入力率が低いため、各演習関連授業で入力を促す指導が必要である。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている

【評価理由】

データ1. 教学に関する基礎データ一覧における2022年から2024年までの過去3年間における卒業者に占める就職者の割合は、84%、87%及び89%であり、増加傾向にある。また、進路先決定率（就職+進学）も、2022年度が91%、2023年度が93%、及び2024年度が94%であり、年々増加傾向にある。就職者の割合を高めるために、入学当初からの学修サポートフォリオの活用や就職活動の準備が始まる前の基礎演習Ⅱにおいて2年生春休みでのインターンシップへの参加の指導に加え、3年生からの就職活動に向けての準備をキャリアサポートグループの協力により、応用演習の各クラスにおいて就職確定4年生による就活セミナーを実施している。また、1年生と2年生での演習において、インターンシップへの参加と就職活動の準備をするように指導をしている。データ3-4. 本コースに国家資格はないが、保健体育教員、アスレティックトレーナー及び健康運動指導士資格があり、「国家試験対策の学修」、「資格取得・スキル習得のための学修」、及び「公務員・教員等の採用試験対策の学修」については、これらの学修を行わなかったと回答した学生を除いて、全ての学生が「とても役に立った」と「ある程度役に立った」と回答しており、資格へのサポートがしっかりと行えていると考えられる。これらも就職及び資格取得に対するサポートを、学科教員全員で継続する。

【特筆すべき取り組み】

本コースの4年間における教育の2つの柱は、1つ目がアスレティックトレーナー、保健体育教員及び健康運動指導士のいずれかの資格取得、2つ目が演習を中心とした教育である。資格については、1年生のオリエンテーションでアンケートを実施して、学生の取得希望資格を把握している。本コースでは、アスレティックトレーナー担当教員部会、教職委員会及び健康関連部会で様々な資格に関わる対策を検討している。添付資料にある学生へのアンケートから、アスレティックトレーナーの資格においては3年次進級時に、資格をあらかじめ取得する学生が多く見受けられるため、アスレティックトレーナー担当教員部会で対策を検討した。その結果、アスレティックトレーナー資格では、日本スポーツ協会がカリキュラム変更に伴い、資格試験に関する大幅な見直しをしたことにより、2年次終了で資格試験の受験が可能となり、資格受験者の大幅な増加が見込める。また、科目の見直しにより、2026年度入学生より健康関連のエアロビクスインストラクター資格も2年次終了時に受験が可能となり、健康運動実践指導者や健康運動指導士の資格取得に繋げるシステムが整った。同様に、2026年度入学生より保健体育教員についても、科目の見直しにより、必修科目を5つ削減し、学生の負担軽減に取り組んでいる。これらの対応により、複数の専門資格の取得が可能となり、本コースの教育の柱の充実につながった。また、それぞれの資格では、担当教員が試験対策を行っている。アスレティックトレーナー資格では、新カリキュラムにおいて「AT特講Ⅰ～Ⅵ」を新設し、合格率の向上を目指している。教員採用試験と健康関連資格試験については、担当教員の持ちコマが規定コマである為、ボランティアで試験対策を行っている。よって、合格率を高めるために、新規教員の採用を切に願っている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行い、成果を確認できている

【評価理由】

新入生入学時調査基本集計結果について、2024年度と2025年度ともほぼ同様の回答をしている。受験を決めた時期と要因について、高校3年に進級してから、オープンキャンパスへの参加とパンフレットやWebページに加え、高校の先生からの情報が本学受験の決め手であった。また、本コースを選択した理由については、学問分野への興味、資格取得と公務員試験及びクラブ活動への入部に加え、帝京大学の知名度も選択の理由であった。受験生は、高校時代から積極的に学ぶ習慣を持っていた。しかし、授業内容や単位取得に加え、授業選択にも不安を持っており、1年次のライフデザイン演習や最初の授業において、学生たちへの丁寧できめ細やかな対応が必要である。自宅からの学生も半数程度いるが、通学に60分以上かかる学生が半数以上（120分以上の学生も10%程度）いる。就職に関して、一般企業と教員が60%程度であり、医療系専門職を希望している学生も15%程度いる。80%以上の学生はパソコンを持っており本学のBYOD教育を受ける準備が整っている。学修行動調査基本集計結果について、学生の行動把握やコースカリキュラムの検討を行うために重要なアンケート調査であると認識しており、学科会議で各教員に演習において学生の回答を促すことをお願いしている。しかし、回答率は、1年生73.7%、2年生56.1%、3年生50.9%及び4年生44.3%である。3年生以外は、昨年度より回答率が改善した。本学科の1年生から4年生が1週間当たり予習・復習・課題などにかかる学修時間は、学年間で若干のばらつきはあるが、1～5時間が51%～65%であり、0時間が29～43%であり、2年生と3年生の学修時間が高い傾向にある。また、授業に関する学修以外の学習時間は、1～5時間が47～58%であり、0時間が36～46%である。さらに、図書館、PC教室、ネットワーク教室、アクティブラーニング教室を週1回以上利用している割合は15～38%であり、ほぼ利用しない割合は62～85%である。各教員は授業内で講義内容の理解を深めるために小テストやアクションペーパーの実施に加え、アクティブラーニング率も83%の授業で実施しているが、学生に授業時間外に学修時間を必要とする反転授業やアクティブラーニング形式授業の内容について検討する。2023年度卒業時アンケートの中で、「大学の授業内容」、「教員の対応」、「大学での学びによる自分自身の成長」及び「総合的にみたとときの大学での学びや学生生活」についての満足度を評価した結果、とても満足と満足を含めるとそれぞれ90.2%、85.1%、90.6%及び93.1%であり、高い評価を維持している。また、「自分流」の獲得については、「とても身についた」と「ある程度身についた」を合わせると80.9%の学生が身についたと評価している。また、本コースで身についたと感じる事柄に関する積極的学び、情報の収集・分析・伝達、及びコミュニケーション能力に関する設問では、「できる」と「ある程度できる」を合わせると85%以上であり、本コースでこれらの能力が身についたと評価をしている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

【評価理由】

データ3-1. 2024年度の授業評価アンケートについて、評価をする。問1から問4にある、授業内容と教授法と学生対応について、4以上（平均値；4.43-4.53）の評価をした割合は85%以上である。特に、教授法に関する問2～問4では、4以上の評価をした割合はそれぞれ86.76%、85.67%及び85.69%であり、教員の指導努力が評価されていると考えられる。問8の到達目標の達成と問9の満足度についても4以上（平均値；4.07と4.31）の評価をした割合は、それぞれ71.73%と82.73%であり、昨年度ほぼ同じであり、学生の満足度は高い。問5と問6の授業準備や事前・事後学修については、平均値は3.46と2.71。4以上の評価はそれぞれ54.15%と30.46%であり、改善が必要である。また、データ4-6. 2024年度開講科目データからも、本コースの専門科目の達成度及び全体の満足度についてはそれぞれ、4.14と4.07である。これからも、学生の満足度を高められるように、全ての教員が継続して学生教育と学生指導に取り組める体制を整える。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

【特筆すべき取り組み】

学修ポートフォリオ（入学時～卒業時の自己評価データ）を活用し、修得目標ごとの達成度を継続的に検証している。これにより、学生の自己評価と履修成績・GPAとの比較分析が可能となり、修得目標のレベル設定の適切性を確認している。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

学修ポートフォリオ自己評価や卒業時調査を活用し、学生の修得目標達成度と教育課程の妥当性を継続的に検証している。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、学科として課題が把握できている

【特筆すべき取り組み】

国家試験対策・臨床実習運営を中心に教員間で業務分担を整理し、全員で責任を分担する体制を構築している。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

学科会議でのシラバス点検体制を整備し、各教員が作成したシラバスを相互に確認することで、修得目標との整合性をチェックしている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

国家試験対策科目など複数教員が関与する分野では、過去の合格状況や学生アンケート結果を基に担当者間で授業内容を調整している。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が80%以上であるが、アドミッション・ポリシーまたは入学者選抜のいずれかに改善の必要がある

【特筆すべき取り組み】

入学後は、基礎学力に課題を抱える学生に対して早期リメディアル教育や学習支援を実施し、入学者の多様性に対応している。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

国家試験模擬試験の結果を定点的に確認し、修得目標達成度との関連を分析している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

【特筆すべき取り組み】

国家試験対策を中心とした全学年での系統的支援体制を整備し、模擬試験の実施や個別面談を通じて学習状況を継続的に把握している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

調査結果に基づき、低年次の基礎学習支援プログラムや国家試験対策の早期化など具体的施策を導入し、学生満足度や到達目標理解度の改善に結び付けている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

【特筆すべき取り組み】

各教員が授業評価アンケートの結果を分析し、「アクションプランシート」に改善点を明文化することで、次年度授業に反映している。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

前期ガイダンス、及びライフデザイン・基礎演習を使い、学科の重要科目であるミクロ経済学、マクロ経済学などの入門科目・基礎科目の計画的かつ体系的な履修を指導した。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】

1年次での選択必修入門科目、2年次終了時点での基礎科目の履修率及び単位取得率についてFD研究会の場を借りて情報共有を行った

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

【特筆すべき取り組み】

・TOEIC-IPテストの必修化と、受検率向上のためのライフデザイン演習、および基礎演習の授業時間内での試験実施（前期・後期ともに実施済み）
・基礎演習Ⅰ・Ⅱにおいて、授業総数の2割を「国際」関係の授業とする取り組みの開始。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

これまでの卒業生が、どのような履修をしてきたかについてのIR調査に着手した。今後、調査結果に基づいて、何種類かの学生のタイプごとの履修モデルの策定を準備する予定である。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

昨年度開催した学科FD研究会において、現在の学科としての課題の共通認識を深め、今年度の基礎演習において授業の2割を「国際」に関係のある授業内容とすると定め、担当教員の判断で実施している。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

アクティブ・ラーニングに関する取り組みについて、演習系の科目では実施していることがわかるように確認している。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

・国際経済学科の入門科目（選択必修）である国際経済入門Ⅰ・Ⅱ、入門マクロ経済Ⅰ・Ⅱ、入門ミクロ経済Ⅰ・Ⅱ、および経済史概論Ⅰ・Ⅱにおいて担当者間で意思疎通が図られ、シラバスの基本ラインの統一が行われている。
・政治経済英語Ⅰ・Ⅱの担当者間で、意思疎通が図られ、履修者数やレベル等についてすり合わせに着手している。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

【特筆すべき取り組み】

学科のFD研究会等で、所属教員間で入学者の学力や能力・態度に対する認識の共有を図っている。これに基づいて、学科としてのアドミッション・ポリシーの策定および改善を実施した。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】

・基礎演習Ⅰ・Ⅱにおいて国際経済学科の独自色を出すべく、今年度より授業総数の2割を「国際」関係の授業を実施することで、担当教員間で合意し、実施に移した。
・基礎演習Ⅰ・Ⅱにおいて修得目標5「情報理論や統計学の知識を使いデータを収集・分析することができる」を着実に実施できるよう、来年度に向けて、共通カリキュラムおよび可能であれば共通教材の策定を準備している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

国際経済学科の1年生、2年生に必修として課しているTOEIC-IPテストの受検を任意で年2回受検できる体制を整備している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証し、さらに学外関係者の意見や社会の動向、学生のニーズも学科独自に調査し、修得目標の見直しに活用している

【特筆すべき取り組み】

昨年の点検・評価の時点では卒業生アンケートはアンケート中であつたが、その後、集計結果が得られたため、今年の点検・評価にて取り上げることとした。卒業生の意見を直接聞くことができ、教育内容や支援の満足具合、地域経済学科での学びが仕事に役立っているかといった回答を通じて地域経済学科の教育の評価を確かめることができた。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

【特筆すべき取り組み】

修得目標の体系性については、学科会議において協議し、必要に応じて変更・修正を加えるようにしている。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、組織的・計画的な担当授業の決定、業務の分担、効率的な会議の運営、教員間の協力体制の構築等、適切な教育課程の編成・運営ができています

【特筆すべき取り組み】

人手が足りないときには学科会議やメールで応援を依頼し、それに対して積極的に手伝いを申し出ており、教員間の協力体制は良好である。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

「シラバス作成のためのガイドライン」と「シラバスの書き方」をもとに、ライフデザイン演習の担当者間でクロスチェックを実施している。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

科目の内容の調整や統一はカリキュラム作成や確認を通じて学科長・教務委員が調整の素案を検討し、定期的に学科教員会議でクロスチェックの依頼を実施している。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

【特筆すべき取り組み】

入学時調査(地域経済学科)の受験前に本学を訪問したかの問いに対し、「本学のオープンキャンパス」の回答人数が「訪問したことはない」の回答人数を超えている。入試運営委員の尽力によりオープンキャンパスでは様々な工夫を実践しており、地域経済学科に関心を持ってもらえるような取り組みを行っている。今年度、ホームページの学科紹介の見直しを行い改善を図った。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】

ガイダンスや演習、ライフデザイン演習で学修ポートフォリオの入力作業を実施しており、入力確認や教員コメントに関する教員向けのマニュアルを作成している。学科教員の協力もあり、入力率は自己評価の項目で79.0～91.3%と高い水準が維持できている。また、卒業生の進路先の意見に関連して、地域経済学科では文部科学省の令和6年度補正予算リカレント教育エコシステム構築支援事業に採択されており、栃木県内の企業と連携し、栃木県出身学生や地域企業と講義やグループワークを行い、企業のより具体的なニーズの把握に努めている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

【特筆すべき取り組み】

これまでアクションプランに基づく学生面談を実施していたが、継続して面談を実施しているゼミもあり、就職に向けた意識の向上に努めている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行い、成果を確認できている

【特筆すべき取り組み】

前年の点検・評価を踏まえて、学科の教員会議で授業評価アンケートの「事前・事後学修に取り組む時間」「授業の到達目標を知っていますか」「到達目標は達成できましたか」の設問について授業内で学生に周知することを話し合い、3年間の結果に明確な改善が見られた。さらにそのグッドプラクティスを地域経済学科の研究会で共有を行った。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

【特筆すべき取り組み】

授業評価アンケートでは9設問中8設問で前年度から改善している。③でも説明したとおり地域経済学科内で情報共有している。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

【特筆すべき取り組み】

経済学部入門科目の履修について見直し、経営学・会計学を中心に履修するように改善する。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

履修者数が非常に少ない科目のうち、特段の理由が見られない科目は今期で閉講し、カリキュラムをスリム化する。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理を行っている

【特筆すべき取り組み】

「企業と会計コース」は経営学科長、「経営コース」は教務主任が担当し、「スポーツ経営コース」の教員を担当者に加える。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

教務委員による主要科目のシラバスチェックの実施。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

教務委員による主要科目のシラバスチェックの実施と調整。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】

①経営学・会計学関連科目の履修について見直す。

②履修者の少ない科目は閉講する。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている

【特筆すべき取り組み】

基礎演習や演習の学生を中心としたビジネスプランコンテストの開催

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

【特筆すべき取り組み】

各教員が初回及び最終回の授業で授業の内容と修得目標との関連性について学生に説明している。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間で同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っており、組織的に内容の調整や統一を図るための検討を行っている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間で同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っており、組織的に内容の調整や統一を図るための検討を行っている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

【特筆すべき取り組み】

ライフデザイン演習、基礎教養演習などの授業において、「修得目標に対する自己評価」欄の記入を強く指示している。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

基礎教養演習において、ニュース検定公式テキストを共通の教材として利用し、学生の理解向上を図っている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、修得目標の落とし込みが十分ではない学科の専門科目のシラバスについては修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】

学科FD活動の一環として、シラバス作成直前の段階においてシラバス作成における修得目標の確認と、落とし込みの方法について共有する機会を設けている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間で同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っており、組織的に内容の調整や統一を図るための検討を行っている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている

【特筆すべき取り組み】

従来から学科独自の就職活動支援の取り組みとして、「就職内定者（卒業生）との交流会」を毎年開催している。今年度はキャリアサポートセンターのイベント案内を学科会議で教員に周知したり、内定者の4年生を対象とした学科独自のアンケート調査の実施、就職活動強化月間の実施など、昨年度以来の就職活動支援強化の取り組みも行った。加えて、教員免許取得者および教員採用者の数は教育学部以外の他学科と比較して極めて高く特筆に値する。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

学科独自の取り組みとして年度内に2度、単位取得が順調ではない学生を対象にした卒業単位確認強化週間を設けている。該当学生と対面での面談を行い、学修行動等についての相談に乗っている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

学期ごとに本学科独自のFD活動の一環である、授業内容改善委員会を開催している。事前・事後学習の数値を向上させる取り組みを実践している学科教員が、その手法を例として発表して情報の共有を図っている。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、学科として課題が把握できている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

キャリアサポートセンターと連携して、1年生のライフデザイン演習でTサブリ（SPI試験対策）を実施している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、学科として課題が把握できている

【特筆すべき取り組み】

学科全教員を対象として、教育・研究業務の両立に関わる現状調査を行なった。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、修得目標の落とし込みが十分ではない学科の専門科目のシラバスについては修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間で同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っており、組織的に内容の調整や統一を図るための検討を行っている。

【特筆すべき取り組み】

同一科目を担当する教員に対しては「その内容を調整する機会を積極的に確保すること、およびシラバスのどの部分についてどのように統一していくかを検討すること」を要請し了承を得ている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】

修得目標16「第三者が理解できるようにプレゼンテーションを行うことができる」同17「他者とコミュニケーションを行いながら、協働作業できる」のように、実社会が新社会人に求める能力と、学科の修得目標が重なっており、かつその達成度が高いこと。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

【特筆すべき取り組み】

演習の授業で積極的に就活への意識づけを行い、学科会議において経験の共有をはかっている（複数ゼミ合同での就活体験共有の試みなど）。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

授業評価アンケートの実施目的に叶ったデータが収集され、収集されたデータが教員に提供されること、すなわち、教員への個人攻撃・誹謗中傷に当たるような文言の書き込みが許されないことを調査実施時に学生に注意喚起するとともに、そのような文言があってもスクリーニングの上教員にデータを渡すシステムの構築を、教務課に提言・要請した。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

心理学研究法を含むデータサイエンス関連科目について、現時点での授業のやり方（履修者数、教室、アクティブラーニングの内容など）の確認や他のデータサイエンス関連科目との学修の接続について、2025年度より担当教員間で定期的に議論を行っている。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

心理学科では例年、点検のための基準の明確化に加え、教務委員会より事前に修得目標の確認連絡とともに、提出された修得目標とシラバスの整合性について、2名の担当教務委員が全体を通して各科目の到達目標と修得目標の適切な整合性、公認心理師に関連したシラバス注意事項記載内容について確認している。不適切な箇所がみられた場合は、担当教務委員より各担当教員に別途連絡し、やり取りをしながら適宜検討と修正を行っている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

データサイエンス関連科目のワーキンググループを立ち上げ、学科全体で意見を共有・すり合わせを行いながら科目間の連携や段階的な学修について検討している。そのため、現状を把握するためのアンケート調査を実施し、現在は教務委員会を中心に科目数設定と科目内容を確定させる方向で動いている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

本学科では、学生の就職活動状況や内定状況を、指導担任を通じてアンケート調査している。この取り組みの目的は、単に学生全体の進路動向を把握するだけでなく、各担任が個々の学生の進路に関心を持ち、きめ細やかな支援につなげる点にある。この方法により、教員は適切な指導や情報提供が行いやすいことが挙げられる。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

授業数が減少する4年次で、教員や授業への満足度について約9割の学生が肯定的な回答をしている。心理学研究演習Ⅲ・Ⅳの授業で4年生まできめ細かい対応を行なっているためだと考えられる。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

【評価理由】

「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則り、「学科の修得目標」の構成・表現を確認し、DPとの統合性やレベルの適切性も丁寧に検証した。一部の目標に対して、すでに統合と削除を適宜行った。現行修得目標に関しては、2024年度卒業した学生の累積GPAと学年別GPAにおいては、ほとんどの目標で2.0以上を達成している。また、2024年度入学生の自己評価では、修得目標の4と10を除いて、そのほか全ての項目で平均値は3（「ある程度修得できている」）であることが確認されている。

【特筆すべき取り組み】

- ① 学生の専攻言語能力の向上を目的として、2023年度よりカリキュラムの微調整を行った。具体的には、英語コース1, 2年次の必修英語授業にextensive reading (多読)を導入した結果、学生のTOEICスコアや読書意欲の向上など、一定の効果が認められている。
- ② 英語コース3, 4年次の必修授業では、学習意欲、英語力の向上を目的に、TOEICテストを評価の10%として使われた。その結果、受験率の向上などの効果が見られた。

2. カリキュラムの体系的・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系的・有効性の確認

カリキュラムの体系的・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

【評価理由】

修得目標ごとの科目数、履修者数などのデータを分析したうえ、目標に対して各授業科目が有効かつ体系的に配置されていることが確認され、改善のための課題の検討が教務委員会内で緒に就いていることから、評価を3とした。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、学科として課題が把握できている

【評価理由】

教務委員長およびカリキュラム担当教務委員によるヒアリングなどを通じて、コース所属教員の業務内容を整理し、業務の分担や会議の運営、また教員間の協力体制を構築できている。また、業務内容に関しては、会議での報告・協議、また文書化により、コース内で共有した。その結果、各教員は専門分野や経験に基づいて業務が配分されていることが確認され、併せて課題も把握されている。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、修得目標の落とし込みが十分ではない学科の専門科目のシラバスについては修正等の対応を進めている

【評価理由】

学科として各教員に担当科目の修得目標を周知し、点検する体制は整っているが、スケジュール的にシラバス入稿完了から授業開始の間に、内容を組織的に点検するのは非常に難しい。

【特筆すべき取り組み】

コリア語コースでは専任教員が主導して、必修言語科目のシラバスを1年次から4年次に至るまで統一的体系的に作成することを継続している。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】

（英語コース）複数クラスで開講している必修英語科目については共通シラバスおよび「必修英語覚書」を作成し担当教員に配布している。各教員はそれに基づき授業を行っている。必修英語以外でも複数クラスで開講している科目については教員間で調整を図っている。

（多言語コース）同一科目を複数クラスで開講しているコリア語コースにおいては共通シラバスを作成し、各教員はそれに基づき授業を行っている。

【特筆すべき取り組み】

（英語コース）英語必修科目については共通シラバスを作成し同一科目の各クラスについて統一を図っている。また「必修英語覚書」を作成し担当教員に配布して、学生への対応も統一を図っている。

（多言語コース）コリア語コースでは、言語必修科目における統一シラバスの作成及び定期的な連絡による周知徹底を行なっている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

【評価理由】

定員充足率は100%を超えている。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】

(英語コース) 教務委員会議と学科会議において、データの活用方法については、学科・コースとして検討段階にある。特に、入学時点での学生の英語力の乖離も見受けられるため、GPAの平均値が低い項目や、学生の自己評価とGPAの間に乖離が見られることについて、その原因を今後分析・検討し、これからその結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用する予定である。

(多言語コース) 修得目標の達成度に関連する一連のデータを収集・分析し、その結果を学科内で共有するとともに、シラバス作成等に活用することを検討している。

【特筆すべき取り組み】

(英語コース)

・GPAが低い科目や、自己評価とGPAの乖離が見られる科目について、その原因を分析し、授業の教育手法や成績評価方法を見直す。学生の自己認識と客観的な学修成果の乖離を可視化し、教育課程の改善に役立てる。

・2025年度企業インタビュー集計データから、本学の卒業生は「主体的に行動し、実績を残している」、「コミュニケーション能力が高く、対人スキルに秀でている」、「実行力がある」といった資質が特に高く評価されているため、これらの資質をさらに強化するため、教育課程の継続的な整備を進める。

(多言語コース)

9月の専任教員会議にて、シラバスの到達目標を学生の学力に見合う形で適宜修正することを周知した。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている

【評価理由】

(英語コース) 学科会議でキャリア委員が就職状況や就職活動に関する情報を定期的に報告されており、就職率向上に向けた具体的な取組について議論している。2024年度の進路決定率は90%に達し、卒業後の進路に対する満足度86%と高い水準を維持していることから、キャリアサポート体制の周知を徹底し、学生一人ひとりのキャリア形成を支援している。

(多言語コース) 2025年卒の実就職率は89.8%、希望者就職率は97.8%と高い水準である一方、前年からの上昇が見られなかったため、評価は「3」ではなく「2」とした。外国語学科では、就職率や就職の質の向上を目的として、キャリアサポートセンターが発信する各種イベント情報に就職委員がコメントを付し、学科会議での報告や全学科教員への一斉メールを通じて周知徹底を図っている。例えば、観光経営学科およびANA総研との連携による「航空セミナー」、「ANA Cargo特別講義」、「ANA成田エアポートサービス株式会社人事課による特別講演」は、外国語学科の学生の関心が高い分野であり、とくに教員が積極的に学生への参加を呼びかけた。その結果、夏期休暇中の空港見学会に参加する学生も見られた。このように、就職委員を中心とした情報共有に加えて、各コースごとに各種イベントの実施などの取組も行われている。

【特筆すべき取り組み】

外国語学科では2年次後期に「グローバル・キャンパス・プログラム」を通じて全員が留学を行う。留学は言語修得のみならず、異文化理解や多様な経験の蓄積を通じて就職活動に資するものであるが、留学と就職活動についてはそれぞれ個別に指導がなされてきた。そこで本年度は、全員留学を直前に控える2年生を対象に国際交流課とともに「留学と就職セミナー」を実施し、学生が留学経験を将来の就職活動やキャリア形成にも結びつける契機とした。

スペイン語コースでは、メキシコの日系人材紹介企業「クイック・グローバル・メキシコ社」による就活セミナーを毎年実施している。学生は語学力の水準、企業の待遇、現地生活の実態を知ること、海外での就労を進路の一つとして考える機会を得ており、八王子キャンパスでの学修や留学への動機づけにもつながっている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【評価理由】

新入生入学時調査や学修行動調査といった学生調査の結果から、学生の学修時間や学修行動の推移を把握し、分析している。特に、入学当初に抱く「授業内容や進度についていけるか」といった不安や、学年ごとの大学生生活の満足度の違いといった点を把握している。また、学生の学修時間を増やすことができるように各教員に課題の出し方などの工夫をするように学科内で検討している。

【特筆すべき取り組み】

・新入生が抱える「授業内容や進度についていけるか」といった学修面での不安を解消するため、入学後の早期段階から学生を組織的にサポートする体制を強化する。

・学生調査の結果と文部科学省の全国学生調査の結果を定期的に比較・検証し、本学科の教育が全国的な傾向に対してどのような位置にあるのかを客観的に評価し、課題改善に生かしていく。

・卒業時調査（2024年度）では、「異なる文化に関する知識をもって物事を判断すること」、「新たなものを構築するために、人と協働作業を行うこと」や「調べようと思ったことについて、複数の情報源から情報を集めること」に対する自己評価の肯定的な回答は、それぞれ96%、94.8%、94.8%と高い水準にある。これらの資質を学生が十分に修得していることを踏まえ、引き続き教育プログラムを充実させていく。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

【評価理由】

前年度の授業評価アンケートの平均回答率は51%であり基準の40%を超えている。授業評価アンケートの項目ごとの数値、および回答率の推移については、6月専任教員会議の場にて、FD委員により詳細に報告がなされ、組織内で定期的に情報を共有するとともに、授業評価アンケートの意義や有効性に対する教員の理解の促進に努めている。

【特筆すべき取り組み】

- ・2024年度の授業評価アンケートでは、教員の対応（設問4の平均）が4.55、全体の満足度（設問9の平均）が4.39と比較的高く評価され、教員の質が高い水準で維持されていることが確認できる。
- ・6月のFD勉強会にて授業評価アンケートの回答率を上げるための工夫について討議した。2025年の後期にもFD勉強会にて、授業評価アンケートの意義について理解を深めるための勉強会を実施する予定。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認し、現状を把握している

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・確認している

【特筆すべき取り組み】

・総合的な学習成果、教育成果の評価のため、学科独自の“Can-doアンケート”を2022年入学生対象に開始、以降の年度の入学生ならびに上級生にも継続的に実施している。このアンケートを通じて、言語能力（DP1）と異文化理解能力（DP2）の向上を測定し、分析している。

・高等教育開発センターのSoTLプロジェクトとして「国際日本学を学ぶ」（1年必修科目）の学修の達成度を測る取り組みが遂行された（2023年）。その成果は研究交流シンポジウムでも報告され（2024年）、2025年度の科目運営に生かされた。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

2024年度より、国際日本学科の科目を含む日本語教員養成新課程を導入した。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できている

【評価理由】

エビデンス資料について、複数の作業担当者の眼で確認作業をおこない、「8.2026年度修正用カリキュラムマップ(教育文化学科)」と「帝京大学教学マネジメントの推進に向けて2025」のガイドライン(1)～(10)の項目を照らし合わせ、適切な校正・表現となっている点を確認した。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

【評価理由】

「修得目標に対して必要以上に科目が配置されていないか」について、「【点検作業用】6.シラバスデータ(教育文化学科)」を確認し、いくつかの科目の修得目標を修正した。また、「各科目の履修者数が授業形式に適した人数となっているか」についても確認をおこない、教務課および教務委員会とも協力することによって、2026年度入学生のシラバスから、いくつかの科目を削除することを決定した。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

【評価理由】

1.「所属教員へのヒアリング等を通して、各教員が支障なく教育業務と研究業務を両立することができるかを確認する」、2.「学科内の業務を整理し、各業務が偏りなく所属教員に配分されているかを確認する」、3.「各業務の進め方等を点検し、教員間の協力体制や職員との連携が適切に行われているかを確認する」の3項目を問うアンケート(アンケート「効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて」)を実施し、確認、検討をおこなった。

【特筆すべき取り組み】

教育文化学科所属教員全員を対象に、アンケート(「効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて」)を実施し、実際の担当業務のヒアリングをおこない、改善・検討資料とした。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、修得目標の落とし込みが十分ではない学科の専門科目のシラバスについては修正等の対応を進めている

【評価理由】

学長室から提供されている「6.シラバスデータ(教育文化学科)」を対象に、自己点検・自己評価委員4名で分担し、教育文化学科のすべての専門科目について、各科目に紐づけされている修得目標と各科目のシラバスの達成目標の記述の対応状況について確認作業を行った。シラバス上の修得目標の記述について改善が必要だと判断される科目の特定が終わり、次年度向けシラバスの作成前に教育文化学科所属の科目担当者に改善の依頼を行う準備が整っている。

【特筆すべき取り組み】

シラバスチェックの結果から、学科の必修科目である教育学演習Ⅰ・Ⅱと卒業研究Ⅰ・Ⅱの修得目標の記述に一部不足があることが分かった。科目を担当しているすべての教員に対して各自見直しをするように学科会議で依頼した。また、同科目群の修得目標との紐づけにも改善の必要があるという検討結果となり、学科会議で承認を得て改善することができた。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】

必修演習以外で複数教員が同一科目を担当することは、「教職論」「心理学実験」「中等教育実践演習」「教職実践演習」において見られる。いずれの科目でも担当者間で調整・統一が行われ組織的に対応していることを学科会議の場で確認した。

【特筆すべき取り組み】

1年次必修のライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ、2年次必修の教育研究リテラシーⅠ・Ⅱは共通シラバスを採用しており、授業担当者はシラバス執筆時だけでなく学期中にシラバスに沿った授業進行等についても学科会議終了後などに情報共有したり、連携、調整を行ったりしている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

【評価理由】

「2025年度教学に関する基礎データ一覧」より、学科の定員充足率が100%以上であり志願者数も数年上昇傾向である。また、「2025年度入学時調査(教育文化学科)」「2024年度入学時調査(教育文化学科)」からは、本学に入学した理由として、「資格取得・公務員試験のため」や「入学した学問分野に強い関心があったから」といった理由が上位に挙げられており、本学科のアドミッションポリシーに合った学生の確保がおおむねできていると判断できる。

【特筆すべき取り組み】

本学科は、教員養成とともに一般企業への就職も視野に入れた幅広い人材の育成をめざしており、このことを学生募集時にも周知するよう努めている。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【評価理由】

学長室から提供されているエビデンス資料に加え、教育学部独自の学生生活実態調査で把握したデータをもとに修得目標の達成状況を整理・評価している。GPAや学生の自己評価から達成状況に大きな問題はないことを確認している。また企業等から得られたデータに基づき、企業が採用で重視している能力に関して、学生たちが在学中に成長を実感していることも確認できた。以上の資料と確認作業の結果を自己点検・自己評価委員会で総括的に整理し、次年度以降のDP・修得目標・カリキュラムマップの継続的改善に資する基礎資料を作成した。

【特筆すべき取り組み】

教育文化学科は、初等教育学科と協力し学部独自の情報収集手段として、学生生活実態調査を毎年実施し、修得目標の達成状況についても学生の自己評価という形で把握に努めている。自己評価の結果やその推移は毎年春の教育学部FD研究会で共有し、DP・修得目標に対する教員の関心を醸成している。教育学部学生生活実態調査とそのデータを用いたFD研究会等の実践については、学内の自己点検・自己評価のグッドプラクティスとして2024年度後期に報告の機会を得た。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている

【評価理由】

「2025年度教学に関する基礎データ一覧」より、2022～2024年度の進路決定率は71%、88%、85%と増加傾向にあり、教員採用試験合格者数も同様に19名、27名、21名と維持されている。また、「2024年度卒業時調査(教育文化学科)」より、「卒業・終了後の進路」について、とても満足している（49.4%）・ある程度満足している（36.1%）で9割弱を占めている結果からも、学科の取り組みはおおむね良好と言える。

【特筆すべき取り組み】

必修の教育学演習・卒業研究の授業内では、キャリアサポートセンターの情報や教職センターからの教員採用試験に関する案内といった情報提供を、学生の進路希望に合わせに行っている。その上で、就職率または教員採用試験の合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

【評価理由】

学修行動調査の結果を学科会議で共有し、特に学習行動や満足度に関して報告を行っている。また教育学部では学生生活実態調査を毎年度実施し、その結果を前期のFD研究会で報告・共有しグループディスカッションを行っている。また同調査の結果を活用し、数値の向上と学習支援に資する取り組みとして、学生向けの啓発資料を作成し授業内で使用した。

【特筆すべき取り組み】

教育学部学生生活実態調査のデータを使用し、学習時間の確保が高い学習成果の達成にとって重要であることを示唆する結果をまとめ、学生向けの簡潔な啓発資料を作成した。この資料を2025年度後期のライブデザイン演習ⅡのLMS上に掲載するとともに、授業内において学修ポートフォリオの目標設定の指導と関連付けて解説を行った。なお、教育学部学生生活実態調査とそのデータを用いたFD研究会等の実践については、学内の自己点検・自己評価のグッドプラクティスとして2024年度後期に報告の機会を得た。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

【評価理由】

学科の回答率（2024年度）は63%で40%を超えており、2023年度の58%と比較しても5ポイント改善している。2024年度は質問NO.1～4、7～9はいずれも7割以上がAまたはBの肯定的回答を行っていた。NO.9の満足度はAが53.4%、Bが29.6%で、合わせて8割以上であった。これらの結果について学科会議で報告・共有し意見交換を行うなど、組織的・継続的にチェックする体制をとっている。

【特筆すべき取り組み】

授業評価アンケートとの関連付けは今後の課題だが、授業運営上の教員のアイデアや問題解決、満足度向上に向けた授業改善等をテーマとしたFD研究会を行い、教育文化学科と初等教育学科合同で授業改善の意見交換を行った。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証し、さらに学外関係者の意見や社会の動向、学生のニーズも学科独自に調査し、修得目標の見直しに活用している

【評価理由】

各修得目標の表現及びレベルの適切性については、学科として継続的に確認を続けているが、一昨年度は、両コースの間での修得目標の数と対応関係、全学修得目標との紐づけの在り方等の齟齬を解消し、昨年度は、両コースの主要科目の選定基準の設定および主要科目の決定を行い、特に主要科目の修得目標が適切に紐づくよう修正し、特に両コースの教科・領域指導法系科目の位置づけを変更した。

【特筆すべき取り組み】

カリキュラムマップの妥当性について点検した結果、「2025年度入学生データ（初等教育コース）」「2025年度入学生データ（こども教育コース）」において、1年生の80%以上が履修した科目を全学の修得目標と照合したところ、8項目のうちH(実践力)以外の7項目がバランス良く該当し、こども教育コースでは、4項目では5～8科目と広がりが見られ、複数の科目が修得目標に紐付く構成となっていることが検証された。また、初等教育コースでは、学部が独自に実施している「2024年度学生生活実態調査（初等教育コース）」Q10において全学の修得目標の達成度（成長感）は約80%となっている。特に、「D. 小学校の教育目標及び目標を達成するための方法について理解し、実践できる」及び「E. 協調・協働することによって新たな保育・教育実践を提案できる」は90%を超えている。

こども教育コースでは、H(実践力)に関しては学年が上がる中で身に付ける力である。学部が独自に実施している「2024年度学生生活実態調査（こども教育コース）」において2024年度卒業生（4年生）に修得目標ごとの成長感を尋ねたところ、H(実践力)に紐付く項目「理論と実践を往還し、具体的な保育・教育実践をコーディネートすることができる」に対して「成長した」との回答は91.5%であった。この結果からも前年度改訂したカリキュラムマップにおける修得目標の各レベルの構成、それらに対応した科目配当の妥当性が確認された。

2. カリキュラムの体系的・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系的・有効性の確認

カリキュラムの体系的・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

【評価理由】

一昨年課題として浮き彫りになった初等教育・こども教育両コースのカリキュラムマップにおける修得目標レベル2の齟齬を解消するため、学科としてすり合わせ作業を行い、両コースの修得目標間に対応関係を構築する形でカリキュラムマップを改訂し、引き続き運用している。

【特筆すべき取り組み】

修得目標項目数が、初等教育コース(10)とこども教育コース(11)で項目数に差異が見られるが、学科内で調整をしながら進めている。一昨年課題として浮き彫りになった初等教育・こども教育両コースのカリキュラムマップにおける修得目標レベル2の齟齬を解消するため、学科としてすり合わせ作業を行い、両コースの修得目標間に対応関係を構築する形でカリキュラムマップを改訂し、引き続き運用している。また、学科のディプロマポリシーを反映した修得目標と関連する資質・能力の主観的達成度を教育学部学生生活実態調査で継続的に調査し、その結果を学部FD研究会等で共有・議論している。学科内の業務を整理し、各業務が偏りなく所属教員に配分されているかを確認する点において、初等教育学科の教員の校務分掌（教務委員の数、体制、FD委員による研究会の運営）、学部独自の校務分掌から効率的な教育課程の推進のために連携している。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

【評価理由】

学科内教員に対して効果的・効率的な教育課程の編成・運営に関するアンケート調査を実施した。その結果、本学科の大きな特徴は、教員間の連携や協働に関して、うまく進めることができているという肯定的な回答が87%を越えたことである。すなわち教員間での連携がよく取れているということになる。そのような状況の中、学部内での業務の分担に関して適切に調整されていると感じる教員は5割程度となる。分掌によって軽重があるのは仕方ないと感じつつ、例えば教務委員の負担が大ききと感じている。学部内での教務委員は16名おり、分掌内でも調整を図っている状態である。

【特筆すべき取り組み】

本アンケートで、学科内での教員間の連携や協働に関しては、極めて良好な状態であることが明らかとなった。この背景には、学科会議、コース会議での学生指導を含めた情報共有が定期的になされ、教員同士のコミュニケーションや理解が深まっていることが考えられる。さらにFD委員会においては、昨今の状況に応じた教育課題（合理的な配慮を要する学生対応、LGBTQなど）に関する研修が学部全体で行われ、学科のみならず学部全体としても効果が得られているものと思われる。教員間の連携や協働が、分掌運営にも良い影響を与えていると考えられる。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【評価理由】

シラバスデータを確認した結果、全ての科目において学科及びコースの修得目標が紐づけられていた。シラバス作成時及び修正時において学科会議にて確認し、修得目標とシラバス内容を各教員で確認し見直す体制を整えるとともに、教務委員がチェックを行った。

【特筆すべき取り組み】

2026年度からの初等教育学科改変に向けて、修得目標とシラバスの確認作業を新教育課程運営委員会を中心に学科として進めている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】

シラバスデータを確認した結果、同一科目の内容については整合性が図られていた。また、2025年度より「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」が初年次教育科目として位置付けられたことから、5つの修得目標に紐付く共通シラバスに沿って学科独自の授業計画を作成した。

【特筆すべき取り組み】

こども教育コースでは、初年次教育科目としての「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」における5つの修得目標に紐付く授業の到達目標を意識して担当者間で授業内容を見直し、統一した授業計画を作成してシラバスに反映させている。初等教育コースでは、2026年度入学生から実施される中学高等学校教員免許取得に関する科目での統一した授業計画のシラバスへの反映の準備を進めている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

【評価理由】

帝京グループ入試の学生はどのGPA区分の層にも一定の割合であり、適切な入試が実施されていると考える。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【評価理由】

教育学部独自に「学生生活実態調査」を毎年度実施し、その多方面にわたる回答結果を、年度を超えて縦断的に、また学科・コースを超えて横断的に幅広く分析し、カリキュラム改善に活用している。

【特筆すべき取り組み】

各授業科目の中で、当該科目の目標が修得目標にどのように関連しているのかを説明し、学生の自覚を促すように働きかける取り組みを継続している。本年度は学習習慣啓発資料を教員に配布し、学生に働きかけるようにしている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

【評価理由】

2022年度からの3年間の就職率は2022年度85%、2023年度91%、2024年度96%と増加傾向にあり、進学者を含む進路決定率も2022年度89%、2023年度92%、2024年度98%と上昇している。

【特筆すべき取り組み】

教員および保育士を目指す学生の支援については、教職センターが中核を担い、「教職課程」「保育士養成課程」ならびに教員・保育士採用試験の準備を幅広く支援している。具体的には、①学修支援の相談・指導を行う「カリキュラムガイダンス」「キャリアガイダンス」「ボランティアガイダンス」、②本学教職課程履修者全員を対象とした教員採用試験対策プログラム（「教師への夢応援プログラム（夢プロ）」「教師への夢小学校教員養成入門プロジェクト（夢プロ入門）」）、③保育・福祉系を志望する学生一人ひとりのキャリアプランに沿った個別指導・支援（こどもコース）、④教員採用試験や保育・福祉系公務員試験に関する情報、教育用語辞典・学習指導要領・自治体要領・保育実習記録・就職活動報告等の提供、⑤帝京教育会および帝京大学Alumni教職の会による「教職・保育職の未来を語る会」を通じた卒業生との交流、⑥こども教育コースによる「在校生と集い」では、在校生と卒業生の交流、卒業生への再就職相談及びリカレント教育、以上の取り組みを通して、学生の就職および進路先の選択・決定のための支援をしている。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行い、成果を確認できている

【評価理由】

教育学部では毎年の後期学期末に「教育学部学生生活実態調査」を実施しているが、その多方面にわたる回答結果を、年度を超えて縦断的に、また学科・コースを超えて横断的に幅広く分析した成果を翌年度4月に第1回FD研究会のなかで共有している。

【特筆すべき取り組み】

教育学部独自に「学生生活実態調査」を毎年度実施し、その分析成果を翌年度4月に開催される第1回FD研究会で共有している。2024年度の「教育学部学生生活実態調査」を踏まえた2025年度第1回FD研究会については、事後アンケートの結果「学科・コースの課題について共有できた」「授業改善へのヒントを得られた」「学生指導の在り方を再考する機会となった」という3項目に対する「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の和の平均は97%以上の高い数値を獲得し、昨年の95%より上昇している。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

【評価理由】

2024年度の第1回FD研究会にて、授業評価アンケートの結果も踏まえながら日々の授業の困りごとや工夫などについて系統的に共有するワークショップを実施した。なお、評価基準の一部に該当する授業評価アンケートの回答率の学科別集計結果は60%と、前年の56%を上回っている。

【特筆すべき取り組み】

2025年2月18日(月)に第3回FD研究会を実施した。事後アンケートの結果「授業改善へのヒントを得られた」「学生指導の在り方を再考する機会となった」の2項目に対する「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の和は、100%を獲得している。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が80%以上であるが、アドミッション・ポリシーまたは入学者選抜のいずれかに改善の必要がある

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、学科として課題が把握できている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、修得目標の落とし込みが十分ではない学科の専門科目のシラバスについては修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間で同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っており、組織的に内容の調整や統一を図るための検討を行っている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、組織的・計画的な担当授業の決定、業務の分担、効率的な会議の運営、教員間の協力体制の構築等、適切な教育課程の編成・運営ができています

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科教員に周知しており、学科として組織的にシラバスを点検するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

プログラミング1・2, プロジェクト演習

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・確認している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

各教員は全ての科目においてLMS上に修得目標を掲載し、履修時に修得目標や到達目標を学生が把握できるようにした。2023年度からバイオサイエンス学科では授業アンケート結果や学生FDからの意見も取り入れてカリキュラム改革を行っている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

既に2023年度からバイオサイエンス学科では授業アンケート結果や学生FDからの意見を取り入れてカリキュラム改革を行い1年生から実験や実習ができるようにするなど修得目標を満遍なく修得できる策を講じている。受講者も年々増えて、2025年度は夏季休暇中にあるにもかかわらず、学年の70%が受講している（25年度から環境バイオテクノロジー研究室演習と名称変更）。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、学科として課題が把握できている

【特筆すべき取り組み】

バイオサイエンス学科では定員充足率を上げることが長課題であったが、学科内の役割をより明確化し、オープンキャンパスなどの参加者数の増加をおこなった。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

チェックリストを作成して、より確実にチェックを行う事にした。シラバス執筆要領から特に重要と思われる点を抜き出して一覧表にした。各教員がこれにチェックを入れながらシラバスを読むことでより確実にシラバスチェックが出来るようになる。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

総合理工学科の化学1と化学2は当コースの3名の教員だけで担当するので、今年度からシラバスを統一し、授業内容、教科書、評価方法等の統一を行った。2026年度のシラバス作成に向けて、ルーブリックを設定している科目と、その内容をコース教員全員で共有する。また、新たに設定することが望ましい科目についても検討することにした。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が90%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を概ね確保できている

【特筆すべき取り組み】

学科教員全体で入学者の傾向を共有して（エビデンス資料）、年内入試（特に推薦型選抜）で受験者・入学者を確保できるように、オープンキャンパス・出前講義・サイエンスキャンプなどでの高校生へのアピールを行っている。オープンキャンパスでは、学科独自のアンケート（エビデンス資料）を行って環境バイオテクノロジーコースに興味を持つ高校生の属性を分析して、高校訪問などに役立てている。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

【特筆すべき取り組み】

2025年度から「バイオキャリアデザイン」を開講した。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

学生の代表と教員が意見交換を行う学生FDを継続的に実施しており、学生からの意見を教育改善に役立てるとともに、大学施設に対する学生の要望を集約して事務に申し入れを行っている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、組織的・計画的な担当授業の決定、業務の分担、効率的な会議の運営、教員間の協力体制の構築等、適切な教育課程の編成・運営ができています

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討を行っている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析している

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】

各科目において、修得目標との紐づけや到達目標が変更された場合には、「カリキュラムマップ_到達目標入り」を更新して確認している。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】

同一修得目標に紐付いている基礎理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法学総合演習については、基本的に内容を変更した場合はその都度学科会議にて確認し、調整を図っている。これらの科目は学科として統合的な重要科目として位置づけている科目である。また、同一科目を複数の教員で担当する科目である理学療法学入門セミナー、チーム医療、臨床技能演習、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲなどは、内容を変更した場合はその都度、学科会議にて確認し、調整を図っている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が80%未満、または、アドミッション・ポリシーと入学者選抜のどちらも改善の必要がある

【特筆すべき取り組み】

高校生を対象としたアカデミックキャンプ、トレーナーサークル

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

【特筆すべき取り組み】

1) LMS使用について

基礎学力の向上を目指し、共通及び専門一般分野（1点問題）の問題をオンデマンドで実施出来るように整備している。問題は、過去17年分プールされており、その中から各分野「50問」抽出され、30分間で終了する様に設定し、「速読力」の向上を目指している。

2) 実地問題について

3点問題（専門実地）の正答率を上げる事が、合格に直結する為、試験直前の1月中に各専任教員が集中講義を実施している。対象は、基本全員ではなく各分野の正答率下位学生としている。また、今年度より実地分野の業者模試が実施されるため、他の業者模試と同様に受験予定である。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が50%以上であり、結果の向上の取組として、学科内で共有した情報を、他学科に対しても発信している

【特筆すべき取り組み】

授業アンケートの結果について学科内で共有、検討し、その結果を年報に記載して発信している。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、学科として課題が把握できている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、修得目標の落とし込みが十分ではない学科の専門科目のシラバスについては修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が80%未満、または、アドミッション・ポリシーと入学者選抜のどちらも改善の必要がある

【特筆すべき取り組み】

VR・スマートデバイスを活用した学習支援や、地域連携イベントを通じた社会的アピールを実施している。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】

・学修ポートフォリオにて成績の経緯をグラフ化し成績の見える化してフィードバックを実施（現1、2年生）

・より具体的な例を提示して理解度を上げるために、VRを用いたシミュレーション教育の実践（2024年度から）

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が80%未満、または、アドミッション・ポリシーと入学者選抜のどちらも改善の必要がある

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

【評価理由】

本学科の修得目標は「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっており、DPとの整合性も確認されている。GPAや学修ポートフォリオの自己評価、卒業生・企業アンケート等を通じてレベルの適切性を検証し、一定の改善取組に活用している点が評価できる。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できており、改善に向けた検討を行っている

【評価理由】

カリキュラムマップにより、全修得目標に対して各授業科目が網羅的に配置されていることを確認している。基礎科目から専門科目への段階的な到達構造が明示されており、修得目標と授業内容の対応関係が可視化されている。さらに授業評価アンケートや学修ポートフォリオを通じて、配置科目の有効性を検証している。一方で、低学年科目と専門科目間の接続や学修時間不足が課題として浮上しており、改善に向けた検討を進めている。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、適切な教育課程の編成・運営に向けた改善の検討や取組を行っている

【評価理由】

学科会議やFD活動を通じ、授業担当や業務分担を整理し、教育課程編成に反映している。授業評価アンケートや卒業後アンケートを共有し、授業改善に向けた取組を行っている。また、教学データ分析により、成績や進級状況を教員間で把握し、教育課程改善に活用している。ただし業務効率化の仕組みを検討中である。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【評価理由】

シラバスは学科の教務委員で点検され、各科目が修得目標に紐づいているか確認しているが、共通教育科目は確認できていない。授業評価アンケートでは「授業の到達目標を知っているか」平均3.93（大学平均4.07）、「到達目標達成度」平均3.91（大学平均4.06）とやや低いが、シラバスに修得目標を落とし込む仕組みは整備している。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間で同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っており、組織的に内容の調整や統一を図るための検討を行っている。

【評価理由】

シラバス作成にあたっては学科会議や学科内教務委員会を通じ、同一科目を担当する教員間での授業内容や評価方法の調整を行っている。授業評価アンケートでは「授業がシラバスに沿って行われているか」平均4.59と高く、一定の統一性が確認できる。ただし、複数の科目で横断的に扱うべき（臨床実践力・患者対応力など）内容については同一修得目標に紐づく科目間での調整が十分とはいえない。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が100%以上であり、入学者選抜でアドミッション・ポリシーにあった学生を十分に確保できている

【評価理由】

学科の入学者選抜はアドミッション・ポリシーに基づき実施され、入学時調査や教学データ分析により基礎学力や学修意欲が確認されている。また、企業アンケートでは卒業生に一定の専門性や協調性が評価されており、アドミッション・ポリシーの基本は機能している。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【評価理由】

修得目標達成度については、GPAや修得単位の推移を教学データ分析で把握し、学修ポートフォリオによる自己評価（2024年度入学生 平均3.05～3.63、2023年度入学生 平均2.31～3.26）を収集している。学科会議にてGPAの平準化を周知し、カリキュラム改善のための会議を定期的に実施している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度の結果より向上が見られる、または同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上となっている

【評価理由】

学科では国家試験対策委員会を中心に模擬試験や補習授業を実施し、合格率・就職率の維持向上を図っている。卒業後アンケートでも90%以上が卒業直後の就職先に継続勤務しており、一定の成果が確認できる。全国平均との比較や経年の合格率推移は前年度より向上した。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

【評価理由】

学科では入学時調査・学修行動調査・授業評価アンケート、学修時間や満足度の把握を学科会議で行っている。授業評価アンケートでは「事前・事後学修時間」平均2.89と大学平均3.16を下回り、学修時間不足が明らかとなった。学修ポートフォリオでは修得目標達成度が平均3.0前後にとどまり、改善点が数値で把握されている。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している

【評価理由】

2024年度授業評価アンケートでは回答率74%と高く、教員全体で十分な回答を得ている。特に「授業がシラバスに沿って行われているか」平均4.59、「教員の対応」平均4.58と高評価を得ている一方、「事前・事後学修時間」は平均2.89と大学平均3.16を下回り、学修時間不足が明らかとなった。結果は教員個人の利用にとどまっている。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】
1つ1つのGPAの比較を行った

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目を体系的かつ有効的に配置するための課題が確認できている

【特筆すべき取り組み】
カリキュラムマップを用いて、全体的なバランスや修得目標に対して必要以上に科目が配置されていないか、履修数が授業形式に適した人数となっているかを把握していった。

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、学科として課題が把握できている

【特筆すべき取り組み】
実習業務に非常勤講師とSAを導入する事で、常勤講師への負担軽減を試みた。

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】
科目担当者に自分の担当とシラバスへの到達目標の落とし込み、アクティブラーニングの確認が出来ているかのチェック結果を提出してもらっている。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間で同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っており、組織的に内容の調整や統一を図るための検討を行っている。

【特筆すべき取り組み】
実習においては、教える内容が異なる様に、担当班をチェンジする等して情報共有に努めている。

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が80%以上であるが、アドミッション・ポリシーまたは入学者選抜のいずれかに改善の必要がある

【特筆すべき取り組み】
救急救命士コースにおいては、高校出張講義や大学見学など入試課からの依頼は断らない様に努めており、2024年度は出張講義だけで10回を行った。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】
1・2年生の到達度試験の範囲を復習科目を増やす事で、到達度を測る事が出来、また、1・2年生同一の問題を行う事で比較する事が可能となった。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための具体的な取組を行っている

【特筆すべき取り組み】

今年度から、念書を書いてもらい、お試し受験する学生においても、三者面談をするなどして、学校での模試や補講を受けてもらう様に施している。

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】

コースにおいて講義で小テストや課題を出来る限り出す様に試みるように促した。

④ 授業評価アンケートの分析・活用

前年度の授業評価アンケートについて、所属教員全体の平均回答率が40%以上であり、結果の向上の取組として、報告会等を実施し、学科内にて情報を共有している

【特筆すべき取り組み】

コース全体で、講義において小テスト・課題を出す様に発信をし、自己学修する様に促している。

2025年度 点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標が「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に則した構成・表現となっていることが確認できており、DPとの整合性の確認、レベルの適切性を検証している

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保および効果的・効率的な編成・運営

① 修得目標に対する体系性・有効性の確認

カリキュラムの体系性・有効性を確認するための情報を確認した上で現状を把握・分析し、修得目標に対して各授業科目が体系的かつ有効的に配置されていることがカリキュラムマップで確認できている

② 効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けた取り組み

効果的・効率的な教育課程の編成・運営に向けて必要となる教職員の業務内容について現状整理ができており、組織的・計画的な担当授業の決定、業務の分担、効率的な会議の運営、教員間の協力体制の構築等、適切な教育課程の編成・運営ができています

3. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスを点検するための体制が整備されており、継続的に点検していくためのルールや基準を明確化した上で学科の専門科目のシラバスに修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

4. 入学者選抜

① 入学者選抜の適切性の確認

定員充足率が80%未満、または、アドミッション・ポリシーと入学者選抜のどちらも改善の必要がある

【特筆すべき取り組み】

医療現場を模した内容のオープンキャンパスの実施や在校生同行の積極的な高校訪問を行っている。

今年度の取組としてAI関連資格試験取得の推奨、AI関連の講演会を実施し、臨床工学技士に付加価値をつけた学生の輩出に向けて、世間に情報発信する予定である。

5. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度の把握

修得目標の達成度を測るために必要な情報として、学長室が送付するデータに加え、学科独自の情報も収集・分析し、その結果を修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

学科として就職率または国家試験合格率の維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を2年以上維持している

③ 学生調査の分析・活用

学生の学修時間および学修行動を学生調査等より把握し、学科として数値の推移を確認・分析し、数値向上のための検討・取組を行っている

④ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析・活用し、その結果を「アクションプランシート」に反映するよう学科会議等での周知を徹底している